
ファンタシースターポータル2

蒼空 光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ファンタシースターポータブル2

【Nコード】

N6872Y

【作者名】

蒼空 光

【あらすじ】

未開のレリクス。そこに閉じこめられ、出会った二人の少女、マトーとエミリア。二人の出会いを描いた、原作の冒頭部分。

序章 二人の出会い (前書き)

原作の冒頭部分を書いてみました。

序章 二人の出会い

ファンタシースターポータブル2の二次創作です

未開のレリクス。その入り口に、沢山の人が集まっていた。ただ、そこに集まっているのは、二十代前半から二十代後半という若者が中心となっていた。

皆それぞれが違う格好をしているが、全員に共通点がある。武器だ。

その種類こそ違えど、それぞれが武器を持っていた。

「よう。久しぶりだな、マトー」
マトーと呼ばれた少女が、声が出た方に振り返った。
左の腰に、漆黒の刀を吊っている少女だ。

年の頃からして、十代中頃だろうか。おそらく、この中でかなり若い部類に入る。少し幼さが残る白い顔には、紅い双眸。黒い髪をツインテールにしている少女だ。

黒いパーカーの前を全開にし、少し残念な胸に、やはり黒い水着を着ている。下半身はパンツスタイルで、膝下までの編み上げブーツという、腹と太股を惜しげもなく晒した格好だった。

「見た感じ、まだフリーなんだな」

「……お前は、まだわたしに構うのか」

目の前までやってきたのは、同じフリーの傭兵。キャストという種族の機械人間だ。

以前同じパーティーを組まないかと誘われ、断った記憶がある。「つれないね。でも、お前もいるのなら、精鋭揃いなんだろうな」
「いや、そうでもないらしいぞ？」

彼の意見を否定する言葉を吐き、後方を指差す。

そこには、

「ねえ帰ろう!? 帰ろうよ!!!」

マトーと同じ年か、それ以下の金髪少女と、

「だめだ。ちったあ仕事しろ」

ひとりのおっさんが揉めていた。

「幻滅したか？」

「……ああ、まあな。あの嬢ちゃんには期待しない方がいい」

そろそろ配給だ、と言いながら去っていくキャスト見送り、マト

ーは少女の方へ足を進めた。

これから共同で作戦を行うのに、揉めていたらチームワークは台無しだ。

そう思い、どうか穏便に済ませるよう警告しようと向かう。

しかし、その時は既に決着がついていたのか、おっさんがどこかに行くのが見えた。

一応、声をかけてみるか。

そう心に決め、足を進めた時だ。

「くうっ！」

少女が膝を付いた。頭を抑え、苦しそうな顔をしている。

頭痛だろうか。

そう思った瞬間、

大地震がおこった。

「おい逃げろ

!!! なんかヤバそうだ!!!」

配給を配っていたビーストが叫んだ。

それが引き金のように、全ての人が『危険だ』と察知する。

直後。

そこにいる全ての者が、出口を目掛け、我先にと一目散に走っている。

それもそのはず。

出口の扉が徐々に閉まりつつあるのだ。

マトーも逃げようとしたが、

「……あ」

まだ逃げてない金髪少女の存在に気づき、速度を緩めてしまった。それが失敗だった。

ゴウン、という重苦しい音が響いた。

「こらー！ 開け！ 開きなさいよー！」

扉を叩く音だけが響く。

逃げ遅れた金髪少女が、閉まりきった扉を叩いているのだ。

結局逃げ遅れたのは、自分だけかもしれない。

そう思ってるのだろう。

はあくため息一つ、少女に話しかける。

「おいその金髪」

そう言つと、びくつと飛び上がった。

「……だ、誰？」

「後ろを向け。ここだ」

少女が振り返る。

マトーを見つけると、少し安心したように息を吐いた。

「よかったあ。私以外に取り残された人、いるんだあ」

そこまで喋って、気がついたようにマトーを見つめる。

じい。

しばらくすると顔を上げて、

「名前は？」

と訊いてくる。

「麻燈。マトーと呼んでくれ」

「マトーね。よろしく。私はエミリア。エミリア・パーシバルよ」

長い名前だ。

思ったが言わなかった。

「そうか。行くぞ、エミリア」

「へ？ どこに？」

「何を言っている。奥だ。出口を探す」

「ちよっ、なにいつてんのあんた！！ ここは未開のレリクスなの

よー！？」

「だからどうした。行かないのか？ 置いていくぞ」

「うっう〜……。わかったわよ。行けば良いんでしょ。行けば」

こうしてマトーとエミリアは、二人で未開のレリクスへ入っていた。

序章 二人の出会い (後書き)

初投稿なので、お手柔らかにみてください。一応は続けるつもりですが、次がいつになるかわかりません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6872y/>

ファンタシースターポータル2

2011年11月20日20時04分発行